

伊豆半島における慢性腎臓病（CKD）患者の初診時から透析導入に至るまでの経過と性差（第2報）

林 陽子:1 清水 芳男:1, 濱田 千江子:2, 鈴木 祐介:3

1:順天堂大学医学部附属静岡病院腎臓内科, 2:順天堂大学保健看護学部,
3:順天堂大学医学部附属順天堂医院腎・高血圧内科

【背景】慢性腎臓病(CKD)対策に関する地域的な特性と性差に着目した報告は少ない. 順天堂大学医学部附属静岡病院は伊豆半島の中央部に位置し, 半島という地形からコホートに類似した集団と考えられる. 我々のグループは, 2020年の日本透析医学会学術総会にて, 2016年の初診患者132(男77, 女55)名の医学的・社会的背景因子における性差を報告した.

【目的】研究開始から3年以上が経過したため, 同コホートに属する患者を追跡し, 初診後3年間に生じるイベント(透析導入ないし死亡)までの期間の性差および初診時の患者背景との関連を明らかにする.

【方法】解析不能の男性4名および女性2名を除外し, カルテから初診から3年間における透析導入ないし死亡までの期間を抽出しKaplan-Meier法にて男女間の差を検討した. イベントまでの期間に関連する初診時の患者背景因子を多変量解析にて抽出した.

【結果】初診時から3年間にイベントを生じた患者は男性27名(37%), 女性18名(34%)であり, イベントの発生率に有意な差はみられなかった($p=0.94$). 生存期間分析においても, 男女に有意な差はみられなかった($p=0.83$, Log-Rank test). イベント発生までの期間に影響する因子として性差は除外され, 有意に関連する因子として健康診断の受診歴($p=0.009$)およびヘモグロビン値($p=0.002$)が抽出された.

【結語】伊豆半島における保存期CKD患者の予後に性差の影響はみとめられなかった. 一方, 専門外来受診にいたるきっかけとなる健康診断受診歴が関連因子として抽出されたことは, これまでのCKD対策が良い影響をもたらしていることを示唆する.